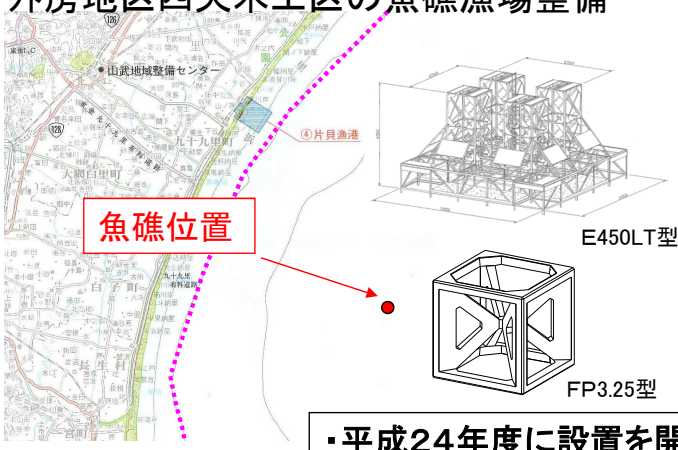


漁場整備に関する事業実施状況について

資料 7-1

外房地区四天木工区の魚礁漁場整備



大網白里市四天木地先沖 約10km
設置水深 約26m付近
鋼製魚礁 12基
コンクリート魚礁 約380個
合計 約19,000空m³

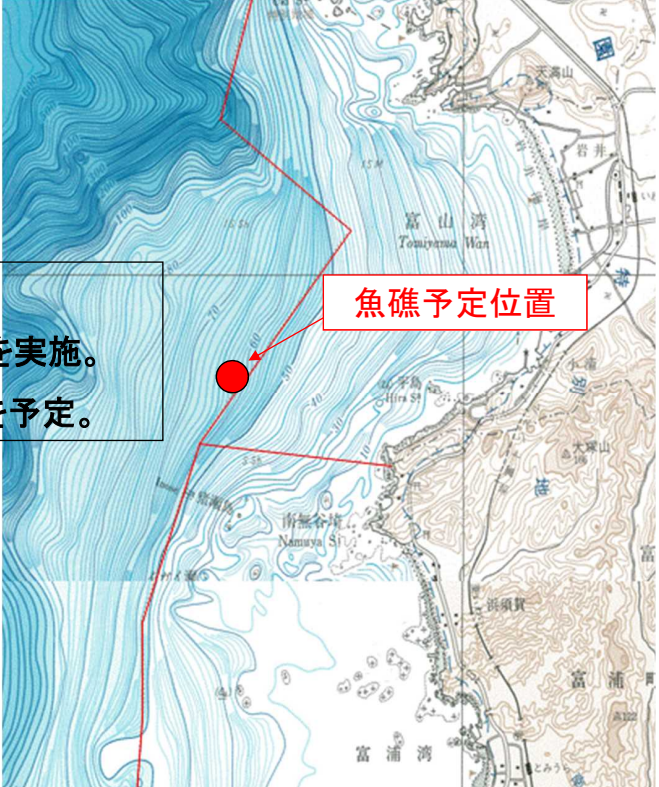
- ・平成24年度に設置を開始、28年度までに完了。
- ・平成30年度は、整備効果調査(モニタリング調査)を実施予定。



内房地区富山工区の魚礁漁場整備

魚礁予定位置
南房総市小浦地先沖 約2km
設置水深 約60m付近

- ・平成28年度は、深淺測量を実施。
- ・平成29年度は、流況調査、詳細設計を実施。
- ・平成30年度は、魚礁製作・沈設工事を予定。

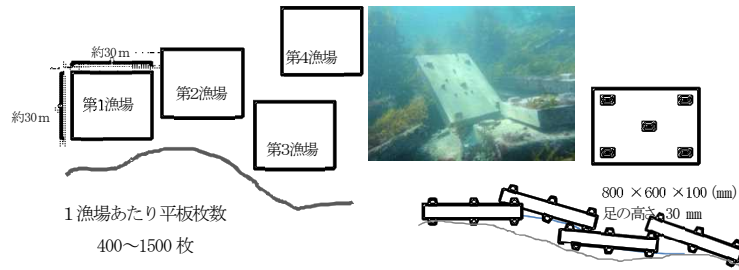


アワビ輪採漁場の整備状況について

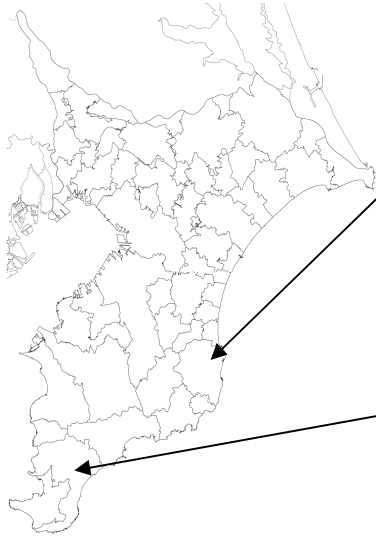
1 事業の概要

輪採漁場は、コンクリート平板で造成した複数の漁場に、毎年度順番にアワビ種苗を放流し、育成後順番に漁獲することで安定した収入を確保し、漁業経営の安定化を図ることを目的としている。

平成 27 年度からは、従来の 3 年型から 4 年型の輪採とすることで、より単価の高い大型アワビの漁獲による収益の増加や、輪採漁場内で育成したアワビの産卵機会を増やし、天然資源の増加を図ることを目指している。



2 事業の実績



御宿岩和田漁協 【平成 27 年度整備】 4 年型輪採漁場		
岩和田地区	1 組	※新規造成
御宿地区	1 組	※新規造成
マダカ礁	1 箇所	※新規造成

東安房漁業協同組合(白浜) 【平成 27 年度～】 4 年型輪採漁場		
島崎地区	1 組	※新規造成
原地区	1 組	※既存漁場に 1 箇所追加
名倉地区	1 組	※既存漁場に 1 箇所追加
乙浜区	1 組	※既存漁場に 2 箇所追加

3 今後の計画

平成 30 年度 南房総市旧千倉町平館・忽戸地区 (2 箇所)
勝浦市豊浜地区 (1 箇所)

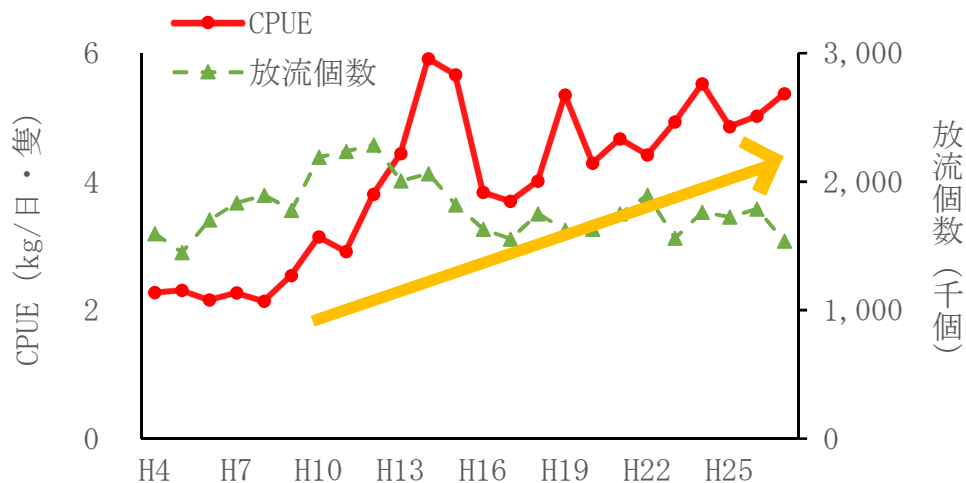
4 アワビの種苗放流及び輪採漁場の造成の効果

千倉地域では、輪採漁場でのアワビ水揚量の約90%が放流貝であり、一般漁場を含めた地域全体の水揚量の約2割を放流貝が占めており、種苗放流と漁場造成の相乗効果により、アワビ漁業を下支えしている。

また、主要10漁港のアワビ漁業のCPUE(1日1隻当たりの漁獲量)は、平成9年度以降、増加傾向にあり、近年は安定していることが推察される。



アワビの CPUE (1日1隻当たりの漁獲量)



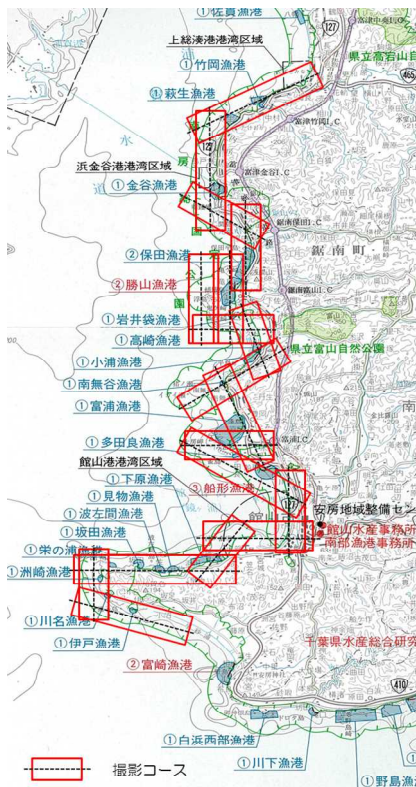
藻場調査に関する平成29年度事業実施及び平成30年度事業計画について

平成29年度事業実施内容

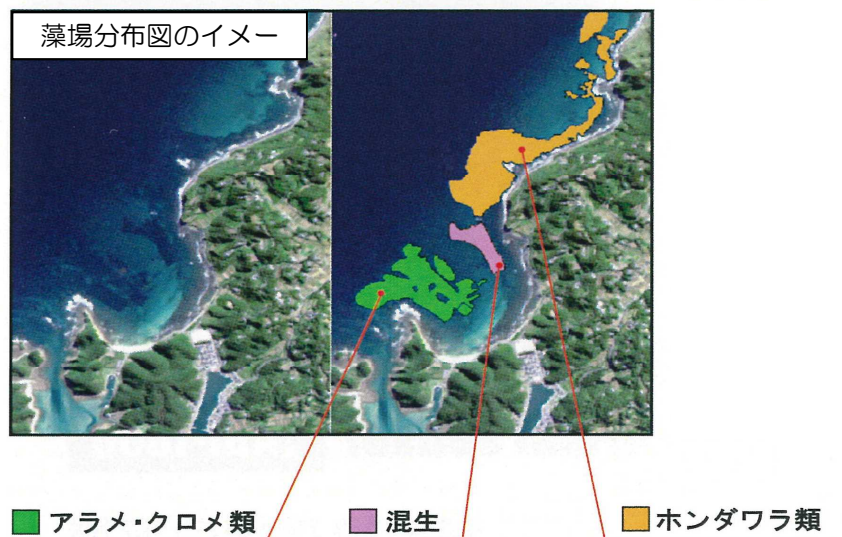
事業名	地区名	事業主体	事業内容
水産基盤整備 調査費補助事業	内房地区	県	航空写真を撮影し、画像を解析して藻場分布図を作成する。 潜水調査によって航空写真を補完する。 過去の状況を聞き取りし、比較によって藻場の消失・衰退の状況を明らかにする。 藻場消失・衰退が確認された地区では、要因を推定し、漁業者とともに対策に取り組む。
			事業費:14,500千円(当初予算額)

平成30年度事業実施内容

事業名	地区名	事業主体	事業内容
水産基盤整備 調査費補助事業	外房地区	県	外房地区において同様の調査を実施する。
			予算額:14,500千円(要求額)



内房地区(29年度実施中)の撮影コース

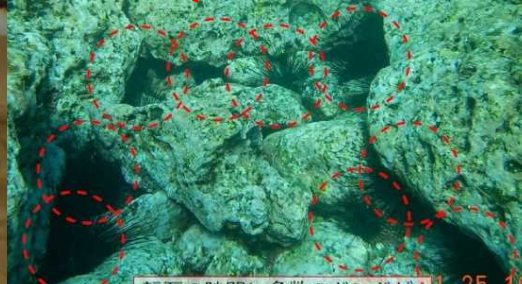


藻場回復の取組み（富山湾）

- 水温上昇により暖海性の植食魚介類の生息域が拡大し、富山湾の一部で藻場の消失が見られている。
- 地区漁業者と県水産総合研究センター、水産事務所が連携し、各種の取組みを進めている。



定置網にアイゴが入網



転石の隙間に多数のガンガゼ



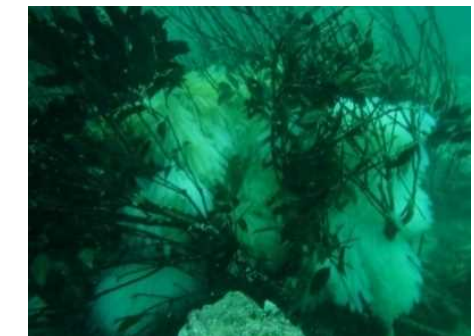
海藻プレートを利用した食害の検証



漁業者が主体となってガンガゼを駆除



海藻ロープで種を供給



アイゴの天敵とされるアオリイカの産卵床を設置 (産み付けられた卵塊)